

地域づくりインターンシップ in 名張市 活動レポート

地域づくりや地域活性化に興味関心のある大学生4名が、名張市の「蔵持地区まちづくり委員会」でインターンシップを行い、同委員会が主催する「市民センター祭」の運営補助及び今後のお祭りについて地域の方と意見交換を行いました。

インターンシップの活動内容

お祭り出店者へのインタビュー

出店者がより快適に参加できるようにするなど、お祭りやその運営をより良いものにするために、蔵持市民センター祭出店者の方に「やりがいや楽しさ」や「お祭りの改善点」などをヒアリングし、お祭りに出店する**原動力**を紐解きつつ**今後の出店者拡大に繋げるための情報収集**を行った。



参加者（市民）へのアンケート調査

市民センター祭に対する市民の気持ちや考えを明確にすることで、より参加しやすいお祭りを目指す、「市民センター祭を知ったきっかけ」や「スタッフとして参加してみたいか」などをアンケートにて質問し、**情報収集の手段やお祭りの運営に対する市民の想い**を調査した。



若者と地域の意見交換会で得られた気づき

①地域はさまざまな背景を持つ人が集まっている

お祭りに小学生から高齢者まで幅広い年齢層の参加者がいたように、地域には様々な背景や考えを持つ人がいる。人々がどのように集まり、どのように行動しているかを感じ、分析することが地域活動を行ううえで大切な要素の一つである。（若者）

②活動に関する「明確な情報」の必要性

若者による調査結果を参考に、30代から50代の現役世代にボランティアへの参加を促すためには、活動に関する明確な情報が必要だ。（地域）

また、中高生の参加を促すためには、大人からの積極的な勧誘や活動の認定を行うことなどが効果的ではないかとの意見があった。（若者）

地域と若者が継続的につながるためには、インターネットとリアル双方でのコミュニケーションが重要だという気づきがあった。（地域）



▼地域の方々との意見交換会の様子

参加した学生の感想



手段が目的にならないように進める難しさを痛感しました。まちづくりとは、その地域の住民が主体的に取り組むことであり、その地域に根付いた魅力を引き出すことが大切だと思いました。（三重大学3年）



インタビューに地域の方々は快く応じてくださり、温かさを感じました。まちづくりとは、その地域を魅力的に感じた人々が集まって住みよい空間をつくっていくことだと思いました。（三重大学3年）



多方面からの意見を交えながら問題解決に向けて進める難しさを体感しました。まちづくりとは、地域住民の方々の生活の質を高め、持続可能な社会を目指すことであると思いました。（三重大学3年）



今回の活動を通じて、地域の催しを維持・発展させていくにはどうすればいいのか、様々な立場の方の意見を交えながら考え続けていくことが、まちづくりになると感じました。（三重大学3年）